



図書館の役割

図書館の役割は図書館法において、資料（本や記録）を収集・整理・保存し、人々の教養、調査研究、レクリエーション等のために資することで、国民の教育と文化の発展に寄与することとされています。

また図書館は、目的や利用者等によって、大きく以下のように分けることができます。

- 国立図書館・・・研究者、国民全体を対象
- 公共図書館・・・市民を対象
- 大学図書館・・・学生、教職員、研究者を対象
- 学校図書館・・・児童生徒、教職員を対象
- 専門図書館・・・特定分野の専門家、研究者を対象
- その他、私設図書館等

この中でも、公共図書館や学校図書館は、多くの人になじみ深い図書館ではないでしょうか。

皆さんもご存じの通り、公共図書館は、地域住民に向けた一般的な図書館で、図書館サービスを提供し、誰でも利用できる施設です。日本では「図書館法」を根拠法として設置されています。

あらゆる年齢層や興味関心に対応し、子ども向けの絵本から専門書まで幅広い書籍が揃っています。また、多くの公共図書館では、地域に根ざしたコミュニティ活動の一環として、講演会や読書会、子ども向けのワークショップなどを開催しています。さらに近年、デジタルコンテンツの提供も進んでいます。

学校図書館は、主に児童生徒や教職員を対象にした図書館で、読書の促進と学習支援を目的とした施設です。「学校図書館法」によって、設置基準や蔵書数等が定められており、校長を館長とし、司書教諭と学校司書を配置し、読書・学習・情報3つのセンター機能を果たすことが求められています。

また近年、どちらの図書館もですが、「居場所」としての役割も広がってきています。居場所としての図書館とは、静かに読書する場から、誰もが気軽に訪れ、滞在できる「サードプレイス（3番目の居場所：家庭と職場・学校、そして図書館）」という考え方です。

子どもが教室に入りにくい時の居場所や10代のユースセンター、シニアの交流の場、カフェ併設などの心地よい滞在型空間という「場所」としての存在意義が上がりつつあります。

学びの場、研究の場、娯楽の場、そして、癒しと交流の場としての図書館の存在を、子供達には、できるだけ早く出会わせたいものです。

YA（ワイエー）コーナー

総合図書館の1階に、YA（ワイエー）コーナーという書架があるのをご存じでしょうか。各区にある分館（11館）にも、同様のコーナーがあります。

YAとは、ヤングアダルト（Young Adult）の略語です。ヤングアダルトとは、主に中学生や高校生をはじめとする10代の年齢層の子どもをさします。

皆さんもご存じの通り、この時期の子ども達は、思春期と呼ばれ、心身共に大きな変化を向かえ、感性が豊かとなる時期です。この時期に出会った人、文学や音楽、さまざまな芸術は、子どもの成長に大きく影響をあたえるものです。そのような時期にある子ども達にとって、図書館や本の果たす役割には、大きなものがあると考えます。

2008年に、IFLA（国際図書館連盟）より出された「ヤングアダルトへの図書館サービスガイドライン」には、「図書館におけるヤングアダルトサービスの使命は、情報資源へのアクセスならびに、知的・情緒的・社会的発達のためのヤングアダルト特有のニーズに応える環境の両方を提供することによって、個人が子どもから大人への移行に成功するように支援すること」とあります。

また、文部科学省の「第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」においては、地域（図書館）における読書活動の推進を図るために、子どもの視点に立ったYAコーナーの設置や心地よい読書環境づくりへの取り組みなどが記されています。

総合図書館や分館には、これからの進路や生き方、人間関係に迷った時、楽しい空想の世界や想像の世界に浸りたい時、勉強で困った時の手助けとなるように、様々なジャンルの本を用意しています。図書館がヤングアダルト世代にあたる子ども達にとって、素敵な本との出会いの場となることを願っています。



2026年が、はじまりました。2025年の総合年間ベストセラー（日販調べ）は、1位「大ピンチすかん3」、2位「カフネ」3位「改訂版 本当の自由を手に入れる お金の大学」だったそうです。日販では、「2025年のベストセラーは、身体や心の癒しにつながる作品や、共感をもたらす作品、すでに定評のある作品がランキング上位を占める結果となった。ここには、近年高まっているウェルビーイング志向や“失敗しない選択”をしたいという消費者の志向が強く表れていると考えられ、とりわけ、口コミやSNS評価における共感性や確実性の高まりは、近年のベストセラーランキングを大きく左右する要因になっている。」と分析しています。

また、「今年大きな旋風を巻き起こした『国宝』は、文庫のため総合ランキングは対象外としているが、口コミで話題となって圧倒的な売れ行きを記録した代表例であり、“今年を象徴する作品”として、堂々の文庫ジャンル第1位を飾った。」ともコメントしています。

今年は、どのような本が、皆さんの手元に届くのか楽しみです。

<須藤>





2月のこととひと

2月5日 プロ野球の日

1936年のこの日、全日本職業野球連盟（現在の日本野球機構）が結成され、プロ野球が誕生したことを記念して制定されました。加盟チームは、東京巨人軍（読売ジャイアンツ）・大阪タイガース（阪神タイガース）・阪急軍（オリックス・バファローズ）・名古屋軍（中日ドラゴンズ）・東京セネターズ・大東京軍・名古屋金鯱（きんこ）軍の7チームでした。

2月10日 世界マメの日

国連の専門機関の一つである国際連合食糧農業機関が制定した国際デーの一つです。記念日の英語表記は「World Pulses Day」です。「pulses」は、「豆類・豆」を意味しています。世界の食料としての豆類の重要性の認識を高めることが目的で制定されました。この日を中心として、豆類の栄養や環境におけるメリットについて広く知ってもらうためのイベントなどが実施されています。

夏目 漱石

（1867.2.9～1916.12.9）

東京都生まれ。小説家で英文学者。明治末期から大正初期にかけて活躍し、今日に通用する言文一致の現代書き言葉を作りました。近代日本文学の文豪のうちの一人です。代表作は、『吾輩は猫である』『坊っちゃん』『三四郎』『それから』『こゝろ』『明暗』などがあります。千円紙幣の肖像にもなっていました。

井伏 鱒二

（1898.2.15～1993.7.10）

広島県生まれ。小説家。1912年、旧制広島県立福山中学校（現広島県立福山誠之館高等学校）に進学しましたが、この時、同校の庭の池に2匹の山椒魚が飼われており、これがのちのデビュー作として発表される『山椒魚』に結びついたと言われています。その他の代表作には『ジョン万次郎漂流記』『黒い雨』などがあります。

エーリッヒ・ケストナー

（1899.2.23～1974.7.29）

ドイツ生まれ。作家、詩人。『エーミールと探偵たち』『飛ぶ教室』『ふたりのロッテ』などの著者として有名です。1933年に発表されたドイツのヨハン・ジギスムント高等中学（ギムナジウム）を舞台にした代表作『飛ぶ教室』原題：Das fliegende Klassenzimmer）は、30以上の言語に翻訳されています。

赤川 次郎

（1948.2.29～ ）

福岡市生まれ。小説家。3歳の頃に手塚治虫の漫画に影響を受け、小学生の時には漫画を描き始めましたが、中学時代に『シャーロック・ホームズの冒険』に出会い、3年生の時に見よう見まねで小説を書き始めたそうです。代表作として『三毛猫ホームズシリーズ』『三姉妹探偵団』『幽霊シリーズ』などが有名です。

図書館員のひみつの本棚 第237回

今月は、子どもたちが好きなものについての本を紹介します。

『4さいのこどもって、なにがすき?』 ウィリアム・コール／さく トミー・ウンゲラー／え
こみや ゆう／やく 好学社 2020年 ¥1600(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★★★★ 小低学年★★★ 小中学年★★★ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般★★★★

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

おばさんの家にあそびにきた4歳の4人の子どもたちが、それぞれの「なにがすき?」をおばさんにおしえます。「ジャングルジム」「たんじょうび」「じぶんのえをみてもらう」「くすぐり」こと、ないしょばなし」などなど。好きなことをやっている子どもたちの楽しそうな姿が、いきいきと描かれている絵本です。

<子どもに手渡す時のポイント>

ぜひ、子どもたちに読み聞かせをしてあげてください。そして、反応をよく見てみてください。きっと好きなものの場面では、より楽しそうにしていると思います。あまりこちらから「何が好きだった?」とは聞かず、楽しそうにしていた場面の好きなものや好きなことで、一緒に遊んであげてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。